

## 【活動報告】9月28日

前週に大雨被害のあった能登半島への支援と視察を行いました



一般社団法人 災害時緊急支援プラットフォーム(代表理事:吉田 浩一郎株式会社クラウドワークス代表取締役社長CEO、以下PEAD)は、9月の大雨で被災した石川県への支援と視察を行いました。

9月21日に能登地方周辺で発生した線状降水帯によって、石川県では観測史上最大の大雨を記録しました。それにより大小合わせて23もの河川が氾濫し、流木や土砂崩れによる甚大な被害が発生しました。

その中でも珠洲市の幹線道路が完全に水没した状況は、過去に例を見ないもので、珠洲市副市長の金田さんも「こんなことは生きていて今まで経験したことがない」と述べており、九州で頻繁に見られる線状降水帯がついに能登半島にも現れたことへの驚きと恐怖を語っています。

### ■ 支援の内容

- ・水 300箱(500ml・24本入)計7.2t(ピースウィンズ、カタリバ 各3.6t)
- ・家庭用電気式 高圧洗浄機10台(ピースウィンズ)
- ・業務用ガソリン式 高圧洗浄機 2台(カタリバ)
- ・輪島市にて荷下ろしの実施など

### ■ 視察の行程

9/28朝の便で羽田から、のと里山空港経由で珠洲市入り

- ・珠洲市内を視察、および珠洲市役所を訪問
  - ・輪島市へ向かいながら山間部を視察、およびPEAD浄水設備の稼働確認
  - ・輪島市内を視察、および輪島市役所を訪問
- 金沢駅に移動して、新幹線にて東京帰着

### ■ 浚渫作業の課題とインフラの現実

近年、線状降水帯による豪雨被害は増加しており、PEADも定期的に豪雨被害地域を視察しています。降雨量が既存の河川インフラのキャパシティを超えるケースが多発しており、浚渫(しゅんせつ)作業が必要不可欠です。しかし、土木業者の高齢化などにより浚渫作業が追いつかず、台風や豪雨の季節までに対応できない地域もあります。この結果、浸水を諦めている地域も出てきているのが現実です。

### ■ 輪島市の仮設住宅の壊滅

今回の豪雨で特に大きな被害を受けたのが輪島市です。仮設住宅142世帯の全戸が床上浸水によって家電や床材、断熱材がすべて使用不能となりました。避難が再び必要となり、多くの人々が再

び生活基盤を失っています。仮設住宅がハザードエリアに設置されていたことが一因であり、様々な事情により適切な場所に仮設住宅を建設できなかったという問題も浮き彫りになっています。

#### ■ 支援が必要な現地の状況

能登半島の復興は、あと一歩というところで再び豪雨に見舞われ、現地の住民や支援者たちは心が折れそうになっています。また、報道の少なさもあって、今回の被害に対する支援や寄付が集まりにくい状況です。今、まさに必要なのは、少しでも多くの方々の継続的な支援です。

詳細は、PEAD代表吉田の投稿をご覧ください。ぜひ皆様、能登半島への支援にご協力いただければ幸いです。引き続き、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

投稿を読む：<https://www.facebook.com/share/p/M4XVrwT4X2xYBwur/?mibextid=WC7FNe>

#### 支援の様子



左：寄付をした水 右：寄付をした家庭用電気式高圧洗浄機



左：輪島市にて荷下ろしをしている様子 右：ボランティアメンバーの集合写真

視察した能登半島の様子



視察した能登半島の様子

